

令和２年度 第１回総合教育会議 会議録概要

１ 開催日時 令和２年７月２日（木） 午後３：００～５：００

２ 場 所 飯山市役所 ３階 ３１号会議室

３ 出席者 飯山市長 足立正則
教育長 長瀬哲
同職務代理 吉越邦榮
委員 西條三香
委員 小林輝紀
委員 松木英文

４ 出席した事務局職員

教育部長	常田新司
文化振興部長	桑原雅幸
子ども育成課長	岩崎敏
課長補佐兼学校教育係長	大口なおみ
学校教育係	佐藤優季子

５ 会議の経過及び発言

１ 開 会

子ども育成課長）

ただいまから、令和２年度第１回目の総合教育会議を開会いたします。

なお、本日の会議内容及び資料等の一部につきましては、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（総合教育会議）第１条の４第６項により非公開の予定です。

それではまず初めに、足立市長から挨拶をお願いします。

２ あいさつ

市長）

今年度第１回目の総合教育会議という事でございますが、新型コロナウイルスの関係でなかなかこうした会議が開催できない中、本日はお集まりいただきましてありがとうございます。

教育について本日の議題もたくさんあるわけですが、新型コロナウイルスの関係でこれから授業の遅れを取り戻さなければならないという課題もあるわけがございます。そのほか、将来的な課題も含めましてご検討いただき、ご意見を賜ればと思いますのでよろしくお願いします。

教育長）

今までに何回か特に議題の２番目に入っております「飯山の新たな学校づくり計画」につきましてご意見を賜りありがとうございます。本日初めて総合教育会議の議題となりま

すが、また更に深めていきたいと思います。

そしていよいよ現在の教育大綱の計画年が今年度末となりますので、ここでまた新しい教育大綱の原案についても検討の時期になりました。その前に昨年度の教育大綱の進捗につきましてもデータが示されますのでよろしくお願いします。

3 議 題

1) 飯山市教育大綱の進捗状況について 事務局から説明（非公開資料）

【資料 1】

市長)

進捗状況の説明がありましたが、何かご意見はありますか。

松木委員)

この後の進捗状況を見ていくと、来年度に向けて 10 月あたりには次期の素案を作っていくようになる。そうすると元年度までの実績についてはある程度考察までまとめておいた方が良いと思う。例えば重点項目にしている、飯山市の教育の 2 本柱の学力体力の向上とふるさと学習についてはしっかりと評価検討、分析しておく必要があると思う。学力については全国学力テストの結果が重点項目の指標みたいな形に評価対象となっているが、飯山市は独自にベネッセを入れているがそれがどれだけ効果があったのか大事にしていきたい。また、ふるさと学習の検定者数がかかり去年は減っているが、教育委員会で提唱しているのに減っているのは学校事情があったのかも含めて把握したい。それから、英語については指導主事の配置により、その効果が表れていると思う。今後課題を明らかにしておけば次の教育大綱の策定に生かせると思う。大事なところは入れ、削るところは思い切って削る。不登校についても数値だけ見ると大変だ。

吉越職務代理)

松木委員と重なるが、数値だけ見ると上がったか下がったかという観点しかないが、その裏側にある実情を明らかにしておきたい。1 つはふるさと学習はかなり減ったと思うが学校と教育委員会の連携で解決できると思う。ただ、不登校については教育委員会だけでは解決できないような家庭事情などもあると思うので他の課と連携してどういうふうに進めるかが大事になってくる。具体的に知りたいのは、不登校児が入学した時に不適應を起こすのか、学校生活継続の上での不適應なのか、または学力不振によるものなのか。その辺が分かるとどの段階でどんな手を打つことが良いのか少しは見えてくると思う。

それと、私の感覚だが 1 番の柱「夢に向かい、自分の道を切り開き～」とタイトルがあるが夢というとてもいい言葉だが、実現可能なものとしてとらえていかなければいけないんじゃないかと思う。ただ茫然とこうなりたいということではなく、言い換えると自己実現に向かいということだと思う。飯山高校も甲子園に行ったことにより、私の中で夢は思い描くだけではなく実現するものだと思う。子供たちも夢はいつどうなるかわからない、可能性は 0%かもしれないし 100%かもしれないということではなく、100%にするためにどうするかというスタンスで向かっていきたいということがあり、私の中で夢という言葉が引っ掛かっています。

市長)

目標を立てていただいていて、特に学力向上の問題は数字で出ているが、全国学力テストは毎年対象者が違うんだよね。

学校教育係長)

はい。毎年 6 年生と中学 3 年生です。

市長)

毎年対象者が違うので指標の取り方が難しい。要因がどういうものなのかということをやらないと、数字が上がった下がったで終わってしまう。何をもって数値を出しているのか、元々この学年が低かったのか等調べなければ、対象者の学力の結果を出しているだけであって、飯山市全体の小学生の学力が下がったのかという、その辺をよく把握しなければ間違った解釈をしてしまう。外部の評価は結果だけ見て単純に結論を出しやすくなるので、よく分析する必要がある。来年で終わるので総括をしなければならないが、正しいものでやらなければ、成果がわからないと思う。

不登校についてはどういう状況で増えているのかわからない。

学校教育係長)

指導主事の分析によると、家庭や家族関係での課題があることによる不登校と学校集団への不適応により中学へ上がったと同時にうまく馴染めず不登校になるケースはある程度特徴的にみられるとのことでした。

市長)

生徒数が減っているのに割合が増えてくるのではないかな。

教育部長)

生徒数も減っているが、実際に不登校の生徒数も増えているので、当然のことながら割合も増えてくるということです。

教育長)

学力については、学年が違うのだから全然違うが、市でやっているベネッセの学力テストの結果を本当は学校別に出せば、それが一番シビアに分かる。学年別を年度別にずっとやっていくとその学年が年度を追うごとにどうなったかかなり出てくる。それを突き詰めると学力や教師の力の違いが明確になる。全体の平均では市の実態が出てこない。平均の怖さはそこにある。学校によっては頑張っている学校と伸び悩んでいる、課題のある学校がある。

教育部長)

各学年ごとの学力差も、ベネッセで把握できています。

市長)

ある 1 人の生徒がどういう状況なのかということが分かれば。

教育部長)

その分析もベネッセではやっていて、個人に対応した学力分析と課題提供もあります。

市長)

例えば、我々は直接教育に携わっていないから、小学校の時に算数が出来なくても、大人になってからそんなに苦労することはないと思うというようにいい加減な思いもあるが、学力は高めていかなければならない。そのような指標の取り方ができるか、平均では単純な結果になってしまう。

教育部長)

ただ、公表されている部分が全国学力テストだけなので。市独自のベネッセの学力テストの結果が全国指標の数字なのかはベネッセで捉えているだけなので、それを指標として公表できるのかというと難しい。

学校教育係長)

公表できるのは、全国学力テストの平均だけになってしまう。市長がおっしゃったように、1人の子の小学校1年からの積み重ねのデータは今積み重なっているところではあるので、そのデータを東工大へも繋いで分析等にも活用いただいているところですので、今後実際の現場では生かしていけるのではないかと考えています。

教育長)

実際にクラスに30人いて、そのメンバーの特性や多様性もあり、非常に難しい部分もあるが、全国規模で見た場合使える指標がこれしかない。市で一生懸命やって、子供達が伸びているということに重点を置いて見ていくんだとしたら、ベネッセを市独自でやって5~6年経つので、ある程度データは出てくると思う。その時に学校別で出してこの会議の場で見てみるのはいいのではないかなと思う。しかも、飯山は単級の学校が圧倒的に多いので、その辺が非常に課題のあるところですが、シビアに見るのであれば、学校別に出したらよいと思う。

教育部長)

今の状況、小学校は低いですけど中学校はまあまあいい数字なので、それが何とかなっていれば、中学3年生では103.8というところまではきていますので、これで中学が落ちてしまいますといよいよ苦しいかなという感じです。これを今後しっかりと見ていかないといけない。

小林委員)

せめて、サクセスストーリーはガラス張りにした方がいいと思う。例えばこの小学校はこの学年がこういう風に伸びているというのは例として挙げ、皆で共有してもいいのかなと思う。何でも全部ガラス張りにしてしまうとアレルギーのあるパターンもあると思うんですけど、基本的には今のこの社会ですからクリアにすべきだと思う。

中学校も実際には上がっていますが、30年度から比べると上がっているが、29年度からすると下がっているわけで、そうやってとらえると学年別では難しい分析があると思

うので、しっかりサクセスストーリーはこうでしたということの公表は大事なかなと思う。

学校教育係長)

ベネッセをベースにしたそういう分析は指導主事の方でもやっていたところではあるので、今年の実情も見ながら報告できる部分はしていければと思う。今年は全国学力テストもコロナでなくなったので、令和2年度の数字は出ないことになってしまう。

教育長)

課題として、学校別のデータを総合教育会議で共有し、学校ごとの実情を知ってもらうこと。この場においてはそこまで突っ込んだデータ公開というのもせざるを得ないと思う。

松木委員)

ある先生の例ですけど、小学校で学力的に厳しいクラスを担当していて、とにかく上げていって6年の学力テストで平均の100を超えていった。ところが中学へいった教え子を追ってみると頭うちになる。そこでその先生が言っていることは何かというと、点数をあげるだけであればある程度小学校でできるが、その先の中学に対応できないということは、点数を上げるだけじゃない、思考判断をどうやって小学校からやっていくかというのは課題として持っている。なので、点数の上りだけが学力なんだと一概に捉えられない部分もあると思う。評価できる中身は何なのかしっかり見ておかないとまずいと思う。

小林委員)

そうすればそれは、15の選択という一番最初に来る中学3年生を最大指標にして、そこまでの分析をきちんとすることですね。小学校6年で一喜一憂しないで基本的には15歳、大事なところでどうなっているかですね。

松木委員)

学力をもとからやるのは授業改善だから、先生方に授業を変えていってもらうことが必要だから。

教育長)

少なくとも自分が持っているクラスの実情が飯山市の中でどの位置にいたかというのは意識してやってもらわないと非常にまずいんじゃないかと思う。今まであまり義務教育はそういうことは気に留めないでやってきた部分があるので、その辺も先生方の意識改革が少しずつは進んできていると思う。

それから、不登校についての大きな傾向としては、城北は小学校から中学校へ上がった時に馴染めないで不登校になるという傾向がある。城南は学力不振になって、中1でつまづく傾向がある。1人1人の家庭環境が違うので一概には言えないが、そういう大きな傾向がある。

市長)

議題もまだたくさんあるので、今年1年間、今出た意見を踏まえて検討して精査してもらいたい。

2) 飯山の新たな学校づくり計画（案）について
事務局から説明

【資料 2】

市長)

新たな学校づくり計画ということですけど、特に小学校の統合ですが、いろいろ検討してまとめてもらってありますけども、これで成案となりますか。

教育長)

教育委員会ではだいたい合意を得ています。

市長)

生徒が減っていくので統合しなければいけないというのはみんな頭の中にあると思うが、一番は具体的にどこに造るかということになる。とりあえず 10 年後のことを考えているが、これもう少し先のことを考えなければいけない。というのは、10 年後で小学生は 630 人になる。例えば 20 年後 2040 年頃小学生はどのくらいになるのか、将来の人口の話したがトレンドで考えた時に、1 校の建物に納まるのはいつなのか。集計してみないと分からないが、小学生が 2000 年で 1600 人、2020 年で 800 人と半分になっている。ということは、たぶん 20 年後には半分まではいかなくても、トレンドである程度推測できると思うが 400 人とか 500 人とかだと 1 校に入ることになる。

教育部長)

今の状況で、複数学級を 2 学級で想定していますが、3 学級 4 学級とすれば 10 年後には 1 校に入る。

市長)

新しく造るカリフォルムするか別として、最終的に 2040 年頃にはそうした姿を展望していかなければいけない。あまり先のことを考えすぎてしまうと分からないが、2040 年、20 年後の姿を考えておかないといけな。その上で、途中をどうするかということを考えないといけな。建物とキャパと児童数の関係で、位置の問題はその次の話で、新しく造るのかリフォルムするのも次の段階の話だから、新しく造るとすればどこにでも造れる訳で、リフォルムするとなると今ある学校だからそのところをはっきり掴んだ方がいいんじゃないか。

教育長)

基本的には、小学校は飯山市は南と北に 1 校ずつという構想。北の子どもが減っても通学等を考えて小学校をなくさないことが大前提として考えています。小学校は 2 校で北も残す。

市長)

教育の理想論で、生徒数が減ってくるから統合しなければいけないと言っている話で、例えば小学校の理想的な教育の児童数が、複数学級だとすれば、その人数に達してしまうのはいつなのか。

教育部長)

複数学級にするということが、まず適正規模だと委員会の中で出されていて、それを追っていくと城北中校区については5年後に統合して複数学級にしても、15年後には複数学級が難しくなることが想定できます。

市長)

複数学級にする場合にはいつ以降単級になるのか。複数学級にしなくてもいいじゃないかといった場合にはどうなるか、ある程度掴んでおかないと。

教育部長)

城北中校区は統合しても単級になってしまう時が令和17年の予想です。

教育長)

検討委員会でも出たが、最終的には飯山市としては南は複数学級が維持できるが、北は途中から単級になるけれど通うことを考えると2校でずっといくというのが飯山市の姿勢です。

市長)

単級になった後はかまわないのか、そこだよ。そのことまで考えておかないと、5年後の話だから。令和17年、2037年には単級になるのだから、もう少し数字で追ってみないといけない。今論議しているのはその途中経過の話でどういう形が望ましいかという話だから、最終形の姿をしっかりとらえておかないと途中経過の検討は難しい。

教育長)

今の現状を見た場合、少なくとも城北中校区の各小学校は今のままでは小規模すぎるという認識です。単級にしてもあまりにも人数が少なすぎて、今の環境のままいくと分かりやすく言うと、子供達が損を被る。たとえ将来単級になると分かっているとしても複数学級が維持できる時はそういう環境を作って、たとえ10年の間でも城北中校区の小学校の児童を教育していかなければいけないという考えが1つです。

もう1つは、飯山市地域全体のことを考えた場合、たとえ北の方が複数学級から単級になったとしても学校を残しておかないと、岡山とかいろいろな地域の子供のことを考えた場合、少なくとも小学校1年生がバスに乗って1時間近くかけて毎日往復2時間、飯山まで通うというのは非常に課題が残る。ますます北の方に住む親達が減ってしまうという考えもある。

市長)

20年後の話だよ。20年後まで小学校状況を把握しておく必要がある。今回の話はそれの前の段階の話だが、検討する側は状況をしっかり把握した上でこういう判断をしたというようにしないといけない。

教育長)

課題検討委員会でも今のような意見が出て、今言ったようなことを話してご理解いただき、答申をいただいてきた。

市長)

公表するかどうかは別として、具体的に数字を出して考え方を共通認識しなければいけない。その上で、公立だからそれぞれの地域に配慮し、総合的に考えて、こういう形でという説明をしないといけない。人口が増えてくれればいいが、なかなか難しい。

教育部長)

トレンドで数字は抑えていきます。国で35人学級をどうにかするような考え方もあるんですが。

教育長)

ただ数字を見ていると、今のままでいってくれればいいが、これ以上厳しくなったらどうしようかなという不安がある。10年20年後、少なくともその間だけでもいい環境を作ってあげたい。

市長)

まだたたき台で、具体的な話を外へ出していくと場所の話になってしまうと思う。統合しなければいけないのは皆分かっているから、今ある学校のところをどうするのかという話にしかない。その方向もある程度説得できるように話の中身を詰めておかないと。素案ができてそれを説明する時にこれは概論なんですということになると位置決定委員会を作らなくてはならなくなるが、それは難しいでしょ。

教育部長)

城北校区については条件を満たす市有地は3つしかないので、3候補地挙げているが場所はその中で決めることになると思います。問題は新築するのか改築するのかというところです。

市長)

あと問題は、新たな学校づくり計画はどこまで踏み込むか、要はこれを詰めて場所の指定までこの計画の中で決めるのか、それともこれはここまでののか。

教育部長)

今は場所まで決めるということは、考えていないです。

市長)

位置決定はどうするのか考えていかないといけない。

教育部長)

基本整備計画等作ってやっていく予定です。

教育長)

基本的には位置は、この総合教育会議で決めざるを得ないと思う。市長さんが市の教育施策の最高意思決定者だから。理想でいけばこの計画を各地区で説明し、理解してもらい、基本整備計画にまとめて、この場で最終決定するのが一番いいと思う。

教育部長)

城南中校区は、市街地であれだけの面積が取れるところが2か所しかないので、旧城南中の跡地の利用が確実に決まれば飯山小学校しかない。問題は城北中校区で、また意見を聞きながら考えていかなければいけない。

吉越職務代理)

8頁の(1)の目指す姿ですが、6～9についてはすっきりまとめてもらっていますが、主語を考えると6は大人がで、7は大人でも子どもでもよくて、8と9は子どもがですね。ここは子どもの立場からするのか統一すると思う。6は大人の立場から考えるとさせるという使役は引っ掛かるので考えていただきたい。

教育部長)

子ども達の目指す姿と言っているので、子ども視点で統一します。

松木委員)

9頁の上から3つ目の◎ふるさと学習の「将来飯山市に戻り」と書いてあるが、そこまで強く謳うのか、飯山の将来をどこにいても担うというような、いつも飯山を気にかけているというような表現がいい。どうしても戻れないという人もいる。

教育部長)

人口を増やしたいという思いからですが、表現は検討します。

小林委員)

15年後城北が複数学級のままでいるには人口増しかない。

ただ、いい意味で捉えれば飯山での仕事があるとかないじゃなくて今は自分で仕事を作れる時代になってきているから、特に15年後くらいにはできるようになっている。どこにいても仕事ができるなら飯山に住もうということですね。故郷を愛してくらいに変えてもいいかもしれないですね。

市長)

よろしいですか。それでは3)第2次教育大綱の策定についてをお願いします。

3) 第2次教育大綱の策定について 事務局から説明

【資料3】

市長)

何かありますか。

私の持論かもしれないが、日本の義務教育ってみんなが同じように学力を付けて送り出さなければいけないということに先生方も責任感を感じている。去年フィンランドの大使の話聞いたが、日本と違って、一番のコンセプトは社会で税金を払う人間になってもらうよう教育をしている。税金を払わないと社会形成できないからだが、そういう人を育成するのが目的だと言っていた。もちろん一般の教科は教えるだろうが、自主的に自分が

社会の中でどういう役割を果たしていくかということを教育の中で育てていくのかなと思う。今はコロナでダメだが1回フィンランドの学校を見に行ってみるのもいいと思う。町そのものは小さく人口も少なく800万人くらいだが、スポーツ、音楽等活躍している人がいる。すぐにはダメだが見に行くのも勉強になると思う。全く個人的な意見ですけど。

小林委員)

今市長の言っているのにもヒントがあって、私もヨーロッパに何回も行っているが学年を超えてやっている学校もいっぱいあって、1年生から6年生までフランクに教室に入って学年ごとわかれていない。そこで教えあったり、好きな授業を探求している、3年生が6年生の勉強をしたりする子もいる。そういう教育の一つの方法があることを、知っている方がいいと思う。だからすごく人数が少なく複数学級ができないので、それであれば学年を超えてそれをリカバリーしようというような教育になっているように見える。その代わり小学生でも大学の大検が取れたりとか、制度がしっかりしているので伸びる子はどんどん伸ばしてやれる、そういうのができている中で成り立っているのかなと思う。日本とはシステムが違いますけどね。

市長)

根本的に社会の仕組みや歴史は違うと思うけど、飯山も新しい取り組みも大事じゃないかと思う。まあ、これを教職員、現場の先生方に持っていくのは大変だと思うが。今世界の動きは柔軟な活動の中から、そのレベルの人を引っ張り上げるというか活躍するようになってきていると思う。

小林委員)

年齢で学年を分けるのはおかしいという雰囲気も場所によってはあり、何歳だと何学年にいかねばいけないのか、それが社会で認められている雰囲気もあるので日本とは違う。

市長)

さっきの学力テストの話もあるが、もちろん基礎学力だからなくてはならないが、極端に言えば、国語はダメだけど算数や数学得意、逆に算数や数学は苦手だが、違う分野には長けているという人がいても出てきてもいいと思う。全然基礎学力がなく社会に適應できないのは困るが、そういう多様性で日本の社会もそういう人達を活かしていくことも必要だ。

小林委員)

ただ、フィンランドは1点は税金が高くて、その代わり社会保障がただで、要するに子どもの教育にお金がかからないので貧富の差がなく学校へ送り出せるシステムがある、バックヤードができています。日本では、経済状況が学力に影響してしまうのでその辺もあるのかなと思う。税金が50%以上で、大学の授業料も医療も全てタダ、生涯病院はお金がかからない。なので、税金を納める教育をしないといけな。でも、社会がそれで成り立っているのだから正しいのですね。

教育長)

先生方は学校の授業だけで、生徒指導はしないと徹底していて、その代わり大学修士課程を卒業していないといけない。先生のカラーも違う。教育にはお金がかかっている。

市長)

また、第2次教育大綱策定はいろいろなことを踏まえて検討してください。

4) 新型コロナウイルス感染対策（教育委員会関係）について 【資料4】
事務局から説明

市長)

何かありますか。

GIGA スクール計画の学校の LAN、Wi-Fi は教室で使うのか。

学校教育係長)

教室で使います。小中学校には整備済です。

市長)

でも、不安定なんですよ。もっと強力なのを入れればいいんじゃないか。

学校教育係長)

ケーブルテレビの太い線が行っているのですが、途中で細くなったり詰まったりしている可能性があるので調査している状況です。アクセスポイントが弱いということもあるのでその辺も強化する必要があるというのは言われています。もう一つは、Wi-Fi を設置した時に、1人1台端末まで想定していない容量で考えていたので。

市長)

1人1台端末を想定した強力な Wi-Fi を入れればいいんじゃないか。Wi-Fi なんて大したことではない。一気に入るが端末を使うのに差がついては良くない。例えば、ベネッセだと進研ゼミはタブレットで、経済的に余裕のある子はそれで勉強できる。だからそういうソフトはいろいろ出てきていると思う。

学校教育係長)

学校は端末を入れたらドリル等そういうソフトを入れることを検討しています。

松木委員)

今までの児童用タブレットはウィンドウズのパッケージが入ったものだったが、使い勝手が悪く、立ち上がりも遅く先生達は使うのをやめてしまう。

市長)

ウィンドウズの端末はアプリがないんだよね。

学校教育係長)

今回の GIGA スクール用にパッケージされているので、基本的なものは入っています。結局はクラウドを目指しています。

市長)

前から言っているが、保護者が毎月 100 円とか 200 円とかお金を積立てて、半分は市で補助し 3 年生くらいになったら自分の個人持ちの端末を買うか、マウスコンピューターで自分で作るとか、そういうのはどうだろう。タブレットは作るのは難しいと思うがパソコンは作っている。

教育部長)

これからは 1 人 1 台端末になるので、少なくとも中学生は家へ持ち帰ることも可能です。

市長)

でも、3~4 年したら古くなってしまう。修学旅行みたいに少しずつお金を積み立てて個人持ちのタブレットを買うことはどうだろう。

教育長)

かなり難しいですね。義務教育は無償ということになっていますから。

教育部長)

貸し出すしかしょうがないですね。それにはしっかりルールを決めて貸し出さないといけません。

市長)

例えば、Wi-Fi がない家庭は i ネットに入ってもらえば Wi-Fi の機会は無料で貸し出すとか。

学校教育係長)

ただ、i ネットに加入していない家庭もあるので、モバイルルーターの貸し出しも考えています。

市長)

高速なのは必要ないから、そんなに高くないのに入って、市が半分補助するとかはどうだろう。そのくらいやっていく時代になっている。

教育部長)

今は 5G になったので、モバイルルーターでやっても速度的にはそこそこいいと思う。今までの 4G だとなかなか厳しいと思います。

市長)

今回のこれで進むところは進んで、差がついている。全国の ICT の教育のための協議会があって、そこに入っている市町村もたくさんある。問題はコンテンツなんだけれど、こ

ういうのはだんだんできてくると思う。足し算やかけ算を家で練習できる。そうすると差が付くけれど、家で練習できることが大切。

教育部長)

そういうドリルを入れるようにベネッセ等でも提案されています。

市長)

飯山市はこういうことに力を入れているというくらいにしないといけない。長野市でこれをやるのは大変だが、飯山市は生徒数が少ないのだからそれだけお金がかけられる。

小林委員)

参考に言うと東進ハイスクールは、東進オンライン学校というのがあるんですが、8 月末までに申し込むと 1 年生～6 年生の 6 年間、中学 1 年生～3 年生の 3 年間、合計 9 年間無料でオンライン授業が受けられるんです。普通だと年間 12 万円かかるんですが、それを今 23 万人登録している。子供がタブレットを持っていれば夕方から夜まで授業を受けられるんです。それはフリー、タダなので利用すればするだけ、ステップを上げられる子供達もいるかもしれないので、市長も言っていたいたが、どんどん整備していただきたい。

市長)

機器等の整備は力を入れてやっていかなければいけない。

小林委員)

例えば、長峰だって部活で子供達が行きますけど、そこも Wi-Fi が繋がっているとそこで補習もできてしまう。休憩時間も必ずあるので宿題をすることもできる。Wi-Fi があれば子供達はどこでも勉強ができるんです。

市長)

時間になりましたので、議題についてはこれでよろしいですか。

4 その他

子ども育成課長)

各学校グランドデザインについて令和 2 年度分の資料が付けてありますので、ご覧ください。

事務局からは以上です。

5 閉 会